

BXグループの成長

1955年
日本文化シャッター株式会社創業

1960年
従業員数:361名 営業所:3ヶ所

創業から
1960年代

時代における「新しい価値創造」



1958年
業界初アフターサービススタート

お客様に安心して使っていただくためには販売後の保守・点検が不可欠と考え、創業から3年後の1958年、業界初のアフターサービス制度を導入しました。



鋼製雨戸「テットー」誕生

当時の住宅雨戸は木製または木枠トタン張りが常識で、朝晩、一枚一枚手で開閉していました。1958年文化シャッターは、操作が簡単な上に防犯・防火・耐風に優れた鋼製雨戸「テットー」を業界に先駆けて開発。テットーは爆発的にヒットし、鋼製雨戸市場が拡大しました。

1970年
従業員数:1,960名 営業所:107ヶ所

1973年
東京証券取引所2部上場

1976年
6社のサービスセンターが誕生
(仙台、静岡、京都、神戸、高松、福岡)

1980年
東京証券取引所1部上場
従業員数:2,273名 営業所:191ヶ所

1970年代
から
1980年代



1974年
防火・防煙シャッターの開発

1972年の大阪千日デパート火災を契機に、建築物に防火機能の強化を求める声が高まり、シャッターには防火性ととも遮煙性が求められるようになりました。文化シャッターは1974年、防火・防煙シャッターを開発し社会の要請に応えました。



1982年～
アフターサービス体制を強化

1982年に24時間365日サービス体制を確立するとともに、1986年にはサービスカーに「カー無線」を導入。文化シャッターは、お客様に「安心」「安全」かつ末永くお使いいただくことに注力してきました。

1990年
従業員数:3,429名 営業所:216ヶ所

1990年代



1991年
業界初、耐火試験炉を完成

シャッター、ドアなどは建築基準法に基づく防火性能を確認するための認定試験が必要ですが、その当時、試験所が全国に2ヶ所しかなかったため多くの時間を要しました。文化シャッターは、1991年業界で初めて耐火試験炉を設置し、認定のための試験を自社でできる体制を構築。耐火性の高い製品開発の迅速化につなげました。

1998年
業界初、ISO認証を取得

住宅用窓シャッターの主力工場である掛川工場が、1998年、業界で初めて品質マネジメントシステムの国際標準規格ISO9002の認証を取得し、その後、他の主幹工場も認証取得。製品品質の維持・向上につなげています。

BXグループの成長

2000年

従業員数:3,193名 営業所:202ヶ所

2000年代

時代における「新しい価値創造」



2002年

防犯性能の高い製品をラインアップ

2002年、戸建て住宅やマンションへの侵入盗が急増した社会情勢に対応して、官民合同会議が設置されました。官民合同会議はより防犯性能の高い建物部品の開発・普及のあり方について検討を重ね、防犯性能試験を実施。その結果に基づいて2004年に公表された「防犯性能の高い建物部品目録」には、BXグループとして計7製品76タイプが搭載されていました。

また、官民合同会議は防犯性能の高い建物部品として認定した製品に貼付する「CPマーク」を制定。BXグループでは、犯罪の抑止効果として、優良防犯建材「BAシリーズ」にCPマークを貼付しています。

2010年

再生可能エネルギー

「太陽光発電システム事業」に参入

従業員数:3,489名 営業所:177ヶ所

2010年 以降



2010年

再生可能エネルギー「太陽光発電システム事業」に参入

BXグループでは、建材メーカーとして培ってきた金属加工技術と全国展開するアフターサービス体制を活かし、2010年に太陽光発電システム事業に参入しました。設計・施工から設置、メンテナンスに至るまでを一貫して請け負うことでお客様に安心して導入いただける環境を整えています。

2011年

止水事業に参入



2011年

浸水から社会を守る止水事業に参入

都市部を中心にゲリラ豪雨などによる浸水被害が社会問題となる中、BXグループは2011年業界に先駆けて止水事業を立ち上げ、オリジナルの止水製品を開発、発売。使い勝手の良さなどが受け入れられ、自治体や企業のBCP対策に、また一般のお客様の浸水対策として採用いただき、「“超”モノづくり部品大賞〈生活関連部品賞〉」などの評価もいただいています。今後も社会のニーズを捉えた止水製品を広く普及させることで社会の課題解決に貢献していきます。